

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

# 播磨町 むかし昔

## その十 播磨町最古の「狛犬」

新しい年の初めには神社へお詣りし、願いをされる方も多いことでしょう。その際に、境内でよく見かけるのが「狛犬」と呼ばれる一対の像で、神社や寺院の建物前に据え置かれた魔除けのための獣です。

狛犬の起源はインドや中央アジアに生息するライオンとされ、仏教と同じく6世紀の頃、シルクロードを通り中国、朝鮮半島を経て日本に伝えられました。そして、仏像の前に獅子を置くことが始まりです。当初は、宮中の御帳台や寺の建物の中に置かれたため、仏像と同じ金銅製や木造でしたが、その後屋外に置かれるようになる、石造へ変化していきます。次に、その位置関係では左右が向き合う形か、守るべき社寺に背を向け参拝者と正対する形が多いようです。また、昨今はどちらも狛犬と呼び

ますが、『禁秘抄』や『類聚雑要抄』では向かって右が獅子で左が狛犬、すなわち獅子と狛犬の組み合わせと記しています。この組み合わせができたのは、平安時代初め頃のことです。ところで、皆さんは獅子と狛犬の違いをご存じでしょうか。口を開けた阿形と、口を閉じた吽形です。これは寺院守護のために三門の左右に立っている仁王像と同様、一対で存在する宗教的な像のモチーフとされています。さらに、口を閉じた方には頭に角があります。(なお、新しくなると角はなくなりませんが、大中住吉神社の狛犬には退化した角が残っています)このように口を開けたのが獅子、閉じて角を持つのが狛犬なのです。

町内最古の石造狛犬は野添住吉神社のもの(花崗岩)と言われています。天保2(1831)年に奉納され、向

【問合せ】 播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂  
☎079(435)5000



野添住吉神社右の「石造狛犬阿形」



大中住吉神社左の「石造狛犬吽形」

かって右が阿形の獅子(氏子である酒造働連中の銘)、左が吽形の狛犬(同素麵働連中の銘)で角はありません。一方、本庄阿閉神社の狛犬を、奥州勤王の志士清河八郎が『西遊草』(安政2(1855)年5月11日礼参)に、「社前の(狛)犬は左甚五郎の作という。古しくなりてさらにわからぬ。」と書いていました。社殿保管の木造狛犬がこれに当たるなら、現社殿の創建と同じ江戸時代前期(元禄年間)のものでしょう。二子住吉神社にもあります。お近くの神社でご確認ください。

町の人口 12月1日現在 住民基本台帳人口( )は前月比  
34,771人(-1人) 男...17,009人(-1人) 世帯数...14,410世帯(+8世帯)  
女...17,762人(±0人)

